

青森県 十和田市における6次産業化促進

2013年5月27日(月) 十和田市において6次産業化を推進するための独自スキームとして、グループワークを開催。今後は勉強会を継続して行います。

(2013年6月15日(土) 東奥日報)

東奥日報 H25 年6月15日(土)

十和田市 6次産業化を推進

勉強会などで生産者支援

十和田市は本年度、生産者が生産から加工、販売まで一手に手掛ける「6次産業化」の推進を図るため、生産者や事業者への勉強会や研修会を年間を通して継続的に行う。6次産業化の認定を受けると、国から助成を受けられるなどのメリットがある。同市は、取り組みの段階に応じた支援事業を行うことで6次産業化認定者を増やし、地域の雇用確保と所得向上につなげる狙いだ。

6次産業化の認定を受けている事業計画は2013年5月末で、全国で1478件、うち本県では45件、同市では1件(農事組合法人赤沼宮農組合)。

同市では、6次産業化に①取り組んでいない②関心は高い③実際に取り組んでいる④の3段階に事業者を分類し、それぞれの段階に応じた支援事業を行っている。

6次産業化にしている。6次産業化に取り組んでいる事業者には事業計画作成の支援などを行っており、早ければ今年9月に申請する事業者が出る可能性もあるという。

同市総合体育センターでこのほど、6次産業化について学ぼうとする人を対象とした勉強会が行われ、参加した生産者14人が、地域の食材や素材を使った商品開発について意見を出し合った。参加者



十和田市で行われた勉強会、地域の食材を使った商品作りについて意見を出し合う参加者

からは「ニンニクなど、地元農家が普段裁市の名産品だけではない、培っているシイタケな

どの食材からも商品を作れないか」「若者に米を消費してもらおうことが重要」などの意見が出た。

国の認定を受けた6次産業化プランナーで、同勉強会の講師を務めたNPO法人元気な日本を作る会の須田憲和組織運営本部長は「継続した支援を行っている自治体は少ないので、十和田市が成功すれば良い先行事例になる」と話した。

同事業に関する問い合わせは市農林部とわだ産品戦略課(電話0176-6743)へ。(土屋実伽子)